

兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No.122

2011年4月25日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒668-0373 豊岡市但東町久畑1 2 6
高橋診療所 TEL/0796-55-0036 FAX/0796-55-0008

在宅医療点数研究会

在宅医療点数の仕組みを学ぶ ～医師、スタッフら26人参加～



医師、スタッフら多数が参加した

但馬支部は、3月26日に日高町センターで「在宅医療点数研究会」を開催し、会員やスタッフなど26人が参加した。

研究会では、在宅医療に関わる保険請求について、昨年10月保団連発行の『在宅医療点数の手引』をテキストに、「往診と訪問診療の違い」、「同一建物居住者とは」など、保険請求上でのポイントを講師の下山均副支部長が分かり易く解説した。

(2面につづく)

（1面からつづく）

講師の下山副支部長は、在宅での点滴注射や処置の指導管理を行った場合など在宅医療で汎用される「在宅患者診療・指導料」や「在宅療養指導管理料」の施設基準、算定要件や留意点についてポイントを説明し、特に算定漏れや算定間違いをしやすい点については、最新のQ&Aも交え詳細に解説した。

さらに昨年の診療報酬で在宅患者訪問診療料等における「居住系施設入居者等」の算定区分の考え方がなくなり、「同一建物居住者以外の場合」と「同一建物居住者の場合」の2区分に再編された内容について、算定チャート図などと照らし合わせながら請求業務を行うことがポイントとした。

今後支部では、「在宅医療点数研究会」を支部定例企画として取り組む予定。



講師の下山均副支部長がスライドを用いて分かり易く解説

幹事会だより

3月26日（土）日高町センターで第131回幹事会を開いた（4人出席）。以下、主に議論された内容を報告する。

- 但馬地域にある9つの公立病院は、地域の開業医と連携する「命綱」としての役割を担っている。ところが医師不足や集約化で非常に厳しい状況が続いている。支部では、勤務医のニーズ把握など、病院対策を強化することが確認された。
- 支部では病診連携の一環として、日高医療センター顧問：芦田一彌先生を講師に研究会「専門医に聞く～開業医でここまで診てほしい（整形外科領域）」を5月26日（木）に開催予定（4面案内参照）。今後、数回のシリーズで開催予定。
- 春の組織強化月間では、昨年秋の普及月間に引き続き、勤務医対策をさらに強化する。今後、但馬地域の13の公立私立病院に支部長はじめ会員の先生方より勤務医の先生方へ入会呼びかける紹介状を頂き、病院への訪問活動を行う予定。
- 支部では、5月14日（土）に支払基金における審査の現状と問題点について、基金職員の南鉄雄氏を招いて、審査問題研究会を開催予定（4面案内参照）。

※次回幹事会は、4月30日（土）に開催予定。会員の先生は、どなたでもご参加いただけます。お問合せは、協会事務局まで。

県社保協が医療・福祉問題で但馬地域3市2町と懇談

高すぎる国保料、医師不足改善を

県保険医協会も加盟する兵庫県社会保障推進協議会（県社保協、会長・武村義人協会副理事長）は1月から2月にかけて、但馬地域3市2町と事前に提出した「社会保障施策についての要望書」に基づき懇談を行った。各市町とも担当課の職員が出席、養父市では広瀬栄市長が出席した。

重点要望項目として、①国民健康保険料について、一般会計より繰り入れを行い払える保険料にすること、②後期高齢者医療制度を即時廃止するよう国へ働きかけること、③こどもの医療費助成制度を拡充すること、④インフルエンザワクチン・ヒブ（細菌性髄膜炎）ワクチン・子宮頸がんワクチンに補助を行うこと、⑤医師不足改善など特に緊急性の高い項目について市町の見解を求めた。



養父市では広瀬栄市長が出席



県社保協メンバーらが医療、福祉問題で懇談（豊岡市）

国保の問題では、各市町に対して、払える保険料へ引き下げよう求めたが、当局側は「医療費の増大や本市の厳しい財政状況の中、現状が精一杯であり、これ以上の繰り入れは困難である」（豊岡市）、「趣旨は十分理解している。これ以上は財政的に困難」（養父市）

と回答。一方、相次ぐ国庫負担の削減により、地方自治体の財政状況が疲弊し保険料が高額になっていることについては共通認識となり、各市町とも「国には改善を求めている」とした。

生活保護の問題では、養父市が県社保協からの要請もあり「生活保護のしおり」を市民誰もが手に取れるよう、窓口に置くよう改善した、とした。

介護保険の問題では、保険料滞納による給付制限を行わないよう求めた。養父市では、「市内で対象者は3人いるが、介護保険の利用実績はない」と回答、機械的な対応を行わないよう強く求めた。市側も「個々の状況は把握している。介護保険を利用される際は、柔軟に対応する」とした。

医師不足問題では、各市町とも喫緊の課題として取り組んでいるものの、医師確保に苦慮している実態が寄せられた。広瀬栄養父市長は、緊縮財政のなか、医師確保の予算だけは大幅に増やし、公立八鹿病院を中心とした南但馬の医療を守るため、朝来市とも連携して取り組んでいることが報告された。この間、養父・朝来両市長は、各大学などに医師派遣要請を何度も行っている。

但馬支部研究会のご案内

支払基金における 審査の現状と問題点

日 時 5月14日(土)15時～

会 場 豊岡かばん協会会議室（じばさん但馬5階）

【豊岡市大磯町1番79号】

講 師 南 鉄雄氏（全基労中央執行委員）

〔略歴〕1971年支払基金兵庫支部に入所、係長として現在も兵庫支部で勤務。2000年より全国診療報酬支払基金労働組合中央執行委員長、2010年より中央執行委員長。

参加費 無料

専門医に聞く 開業医でここまで診てほしい

〈整形外科シリーズ第1回〉

日 時 5月26日(木) 午後7時～

会 場 公立日高医療センター健診センター4階

（軽食あり、参加費100円）

アドバイザー 公立日高医療センター顧問 芦田 一彌 先生

共 催 中外製薬株式会社